

学長候補適任者推薦書

単独推薦
 連名推薦

2019年6月11日

国立大学法人山形大学
学長選考会議議長 殿

推薦(代表)者氏名 (高橋辰彦) (自署)

私は、本人の承諾を得て、下記の者を国立大学法人山形大学学長候補適任者として、関係書類を添えて推薦します。

記

犬場 好弘

- (注) 1. 推薦方式について、本書類名称の右側にある「 単独推薦」又は「 連名推薦」の何れかにチェックを入れること。
2. 連名で推薦する場合は、推薦代表者が本書類を作成すること。
3. 用紙は、日本工業規格A4判・縦型とすること。

推薦者名簿

学長候補適任者氏名 大場好弘

No	所属等	職名	推薦者氏名
1 (代表)	学術研究院(工学部主担当)	教授	高橋辰宏
2	学術研究院(工学部主担当)	教授	廣瀬文彦
3	学術研究院(工学部主担当)	教授	西岡昭博
4	学術研究院(工学部主担当)	准教授	香田智則
5	学術研究院(工学部主担当)	教授	村澤剛
6	学術研究院(工学部主担当)	准教授	幕田寿典
7	学術研究院(工学部主担当)	助教	西辻祥太郎
8	学術研究院(工学部主担当)	准教授	松田吉悟
9	学術研究院(工学部主担当)	助教	藤原翔
10	学術研究院(工学部主担当)	教授	杉本昌隆
11	学術研究院(工学部主担当)	教授	山内泰樹
12	学術研究院(工学部主担当)	教授	佐野健志
13	学術研究院(工学部主担当)	准教授	横山道央
14	米沢キャンパス事務部会計課長	会計課長	庄司三輝
15	学術研究院(工学部主担当)	教授	時任静士

- (注) 1. 単独での推薦の場合は、本名簿の作成は不要とする。
2. 「所属等」「職名」及び「推薦者氏名」欄は、全て自署によるものとし、名簿の先頭 No1(代表)には推薦代表者が記入すること。
3. 役員は「職名」と「推薦者氏名」欄のみ記入し、経営協議会委員は「所属等」には「経営協議会」、「職名」欄には「委員」と記入すること。また部局長は「職名」欄に当該部局長名を記入すること。
4. 教員にあっては、「所属等」欄については所属と主担当教員として配置された教育研究組織等を記入すること。【例：学術研究院(人文社会科学部主担当)】
5. 用紙は、日本工業規格 A 4 判・縦型とすること。

推薦理由書

学長候補適任者氏名 大場好弘

新時代の山形大学を導くことのできる真のリーダーは、大場好弘理事・副学長に他ならない。「何故、大場好弘理事・副学長が強いリーダーシップを発揮し続けられるのか？」それは山形大学の発展を通じて学生・教職員・社会、多くの人々を幸せにしていきたいとの大志があり、情熱・行動力・対話力・決断力・スピード・誠実さ・歴史観を備えたりリーダーだからである。

今、地方と日本を取り巻く環境は厳しさを増している。地方大学が生き残り、地域・世界に貢献していくには、**不断の改革により特色を強化・発信**することが必須である。出身大学や学部持ち回りでなく、**大学全体を考え改革を実行できるか否か**を基準とし、真のリーダーが選定されることが求められる。以上の観点から、大場好弘理事・副学長が最適任であることを、選考基準の項目ごとに、実績をもとに理由を説明いたします。

(1) 信頼・人格・学識・国際視野・強いリーダーシップ

有機合成化学の優れた学識があり、また「**あかるい山形MVP(企業人の投票で選出)**」や「**山形県科学技術賞**」を受賞している通り、**学外や地域からも評価と信頼**を得ている。初代ベストティーチャー賞を受賞し、学生からの信頼もある。**国際的な視野から山形大学の特色と強み**を考え、**約10年で世界をリードできる国際的研究教育拠点形成を指揮し達成**してきた実績がある。

(2) 社会的な期待要請の把握・将来ビジョン・実行力

産業界の要請にこたえる為に「基礎研究をもとに、社会実装・事業化までのイノベーションを産学共同で推進し、**オープンイノベーション・エコシステムのハブ**となる」ビジョンを理事・副学長として組織改革・人事改革を行い実行し実現してきた。**文部科学省からも山形大学の改革推進の旗手として高い評価を得ており、更に大学全体に広げていくことを期待**されている。

(3) 社会の変化・地域ニーズ・大学個性の伸長・大学改革

文部科学省の地方創生のCOC・COC+プログラムの推進、日本初の化学繊維産業を生んだ山形大学の伝統を受け継ぎ、米沢市「学園都市」構想や飯豊電池バレー構想の中核となる**イノベーションを地域とともに先導**してきた。近年は、**学生・地域人材のアントレプレナー育成を推進し、米沢地域のイノベーションを山形県全体へ波及**させている。

(4) 大学資源の最大限活用・戦略的マネジメント・情報発信

国の重要施策の一つであるCOIプログラムでは、研究リーダーとして、**若手支援・ダイバーシティ・男女共同参画・医工連携・農工連携・人文社会科学の活用**を進め、地方創生に貢献してきている。また、山形大学の**グローバルネットワークを地域企業の国際ビジネス商談へ活用し、新聞等のメディアへ積極的に情報発信**している。

以上より、山形大学の命運を託すリーダーとして、大志・実行力・実績を備え、器量の大きな大場好弘理事・副学長を最適な候補者として強く推薦いたします。

(1190文字)

同 意 書

私は、国立大学法人山形大学学長選考等規定大5条第4項に規定する学長候補者として推薦されることに同意します。

日 付 2019 年 6 月 12 日

氏名(自署) 大場好弘

学長候補補適任者の経歴・業績書

(ふりがな) 氏名	おおば よしひろ 大場 好弘
生年月日	昭和 28 年 7 月 3 日 (65歳)
現住所	山形県
最終学歴	東北大学 大学院理学研究科 博士後期課程修了 理学博士

経歴及び業績

年 月 日	事 項
経 歴	
昭和57年4月1日	山口大学理学部 助手 ～至昭和61年9月30日
昭和61年10月1日	山形大学工学部 助手 ～至平成元年5月31日 助教授 ～至平成12年3月31日(平成2年4月1日米国オレゴン州立大学 博士研究員(兼任) ～至平成3年9月30日) を経て
平成12年4月1日	山形大学 教授 工学部 ～至平成19年3月31日
平成13年9月1日	評議員(兼務) ～至平成16年3月31日
平成18年4月1日	工学部 物質化学工学科長 (兼務) ～至平成19年8月31日
平成19年4月1日	大学院理工学研究科 教授 ～至平成26年3月31日
平成19年9月1日	工学部長・大学院理工学研究科長(兼務) ～至平成23年8月31日
平成23年4月1日	有機エレクトロニクス研究センター 所長(兼務) ～至平成26年3月31日
平成25年4月1日	有機エレクトロニクスイノベーションセンター 所長(兼務) ～至平成26年3月31日
平成26年4月1日	理事・副学長 ～至現在
平成26年4月1日	東北創生研究所長(兼務) ～至平成31年3月31日
平成26年4月1日	知的財産本部長(兼務) ～至現在
平成29年4月1日	産学官連携推進本部長(兼務) ～至現在
平成31年1月1日	オープンイノベーション推進本部長(兼務) ～至現在
主要公職歴	
平成19年9月1日	財団法人山形大学産業研究所 理事長 ～至平成23年8月30日
平成19年9月1日	山形県科学技術会議委員 ～至平成23年8月31日
平成19年11月1日	国立大学工学系部長会議 工学部離れ対策ワーキンググループ委員 ～至平成20年8月31日
平成20年9月1日	国立大学工学系部長会議 未来を創る工学ワーキンググループ委員(副委員長、委員長) ～至平成23年8月31日
平成21年6月1日	文部科学省 大学における実践的な 技術者教育 のあり方に関する協力者会議委員 ～至平成23年3月30日
平成22年6月7日	米沢市総合計画審議会会長 ～至平成23年3月31日
平成22年11月5日	文部科学省 先導的 大学改革推進 委託事業 技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究 委員 ～至平成24年3月31日
平成27年2月9日	文部科学省 卓越研究員制度検討委員会 委員 ～至平成27年3月27日

研究業績	専門：有機合成化学 分子認識化学 主要業績：分子認識の環状化合物チアカリクサレン 世界初の合成成功 論文（査読付）：92報 特許：16件（内登録12件）著書等：4編
受賞歴 平成17年3月 平成18年3月 平成24年4月 平成25年1月 平成25年1月 平成28年9月	山形大学工学部物質科学工学科 ベストティーチャー賞 個人 山形大学工学部 ベストティーチャー賞 個人 平成24年度 文部科学大臣賞 科学技術賞 (理解増進部門) (大場好弘、野口博、三浦房紀、両角光男で共同受賞) 山形県経済同友会 あかるい山形MVP賞 (大場好弘・結城章夫で受賞) プリンタブルエレクトロニクス展大賞受賞(山形大学) 団体 平成28年度 山形県科学技術賞 個人
経営業績 1. 全般 2. 代表的な実績 3. 独立採算経営 4. グローバル 5. 地方創生	<p>2007年工学部長就任とともに「研究世界No1 教育日本No1を目指す」ビジョンを掲げ、教職員と共有し、組織改革・人事改革を行い、その後も、センター長・理事・副学長・東北創生研究所所長・本部長（知的財産・産学官連携推進・オープンイノベーション推進）として、この12年間、国際的研究教育拠点形成・外部資金のみによる独立採算経営体制・特色ある大型産学連携体制・地域創生推進・国際連携マネジメントをリードしてきた。</p> <p>有機材料システム国際的研究教育拠点化（約500名体制 最近10年で8施設センター・合計約3万平方メートル開設（合計約200億）過去15以上の大型（年約1億以上）研究教育プロジェクト（例：地域卓越戦略的結集プログラム（年約2億）（S評価）5年一貫博士課程リディングプログラム（年約1億）（S評価）等）を実行し、特に若手・海外・女性研究者の活躍を支援し、卓越人材の招聘へ「卓越研究教授規定」を整備し、関係各位と協力し、世界をリードする研究教育拠点化を達成し成果を創出してきた。</p> <p>現在、国の主要政策プログラム（大型研究教育7プログラム COI（2事業）/OI/OPERA/OI-OPERA/地域イノベ/EDGE-NEXT）の全てを実施している唯一の大学となり「文部科学省の政策は山形大学の成果にかかっており、地方大学のモデルである」と、高い評価と期待を得ている。</p> <p>基礎研究をもとに、社会実装・事業化までのイノベーションを推進し、独立採算経営（文科省運営交付金ほぼなし 年約10億 有機エレクトロニクスイノベーションセンター）を実現させ国から高く評価されている。これにより山形大学が日本の主要研究11大学（RU11）の1角を占めることができている（2016年民間企業からの共同研究費11位（年8.6億円）平均伸び率1位）。</p> <p>戦略的国際マネジメントを構築し、日独クラスター間国際共同開発（双方約15企業機関）では、ドイツ・メルケル首相に直接アピールできる日独を代表する活発なクラスター間連携に約10年で成長させてきた。</p> <p>山形地域のニーズをとらえ、文科省COC事業COC+事業を推進し、米沢市「学園都市」構想や飯豊電池バレー構想の中核となるイノベーションを先導し、ベンチャー企業創出を近年10社輩出支援してきた。人材招聘でアントレプレナー育成を強力に推進できる体制構築をリードし、その成果の出始め方に地域と国から非常に高い評価を得ている。</p>

大学の運営等に関する所信書

氏名 大場好弘

1. はじめに

山形大学に着任して約33年間、常に本学、地域社会、そして世界をより良くしたい、その**決意と責任**をもって奉職してまいりました。特に教授就任1年後に生じた入試判定ミスでは、**本学存続の最大の危機を乗り越えるべく粉骨砕身**いたしました。その過程において、本学の社会的責務の大きさを改めて認識するとともに、それ以来自らが本学を牽引してより良い大学としていくと**の意思を強固に**いたしました。今後、東北地方の18歳人口激減、運営交付金の毎年1%減少、国際的な大学間競争など、本学を取り巻く環境が厳しさを増すことが見通されます。こうした難局を乗り越えるだけでなく、本学が更なる発展を遂げられるよう、最大限の努力をしてまいる所存です。

2. 基本方針

改革を加速して魅力ある大学とするため、**本学の3つの使命・5つの理念や、従来方針を継承するだけでなく、地域のグローバル大学になることを目指す「山形大学ビジョン 2030」を策定**します。本ビジョンでは、10年後に「世界Top200、アジアTop100、日本Top30」に入ることを指標とします。この実現のための戦略・戦術・KPIについては、**若手も参画した分野・キャンパス横断の教職員プロジェクトチームを新設**して、2020年末までに策定いたします。この過程で、各教職員が、**各分野での独自性を保ちつつも、全学的なアイデンティティと誇り、そして危機感を共有して、全教職員に当事者意識を醸成**いたします。なお、本ビジョンの策定・実行は、「国立大学ガバナンス・コード骨子」と「第4期中期目標期間における国立大学法人の教育・研究に関する客観的指標等の在り方」をもとに行い、SDGsの趣旨も参考に「誰一人取り残さない」ことを基本方針といたします。

3. 施策

(1) 教育

人工知能・データサイエンス・アントレプレナーシップに関する教育を全学**基盤教育**として導入し、産学協働インターンシップも充実させます。また、**英語力向上・多文化理解増進**を図る施策も実施します（留学生率及び海外留学率向上）。これにより人間力・実践力を有し、社会・海外での経験を備えた人材を育成します。高度な課題を解決できるようにするための**大学院進学率**

向上、将来の**学生減少**へ向けた**社会人リカレント教育充実**にも注力します。加えて、学生一人一人と綿密なコミュニケーションを取り、学生の心の不安・経済的困難に寄り添います。

(2) 研究

全ての分野において、**優秀な若手・女性・海外教員**を招聘し、集中的に支援を行うことで**TOP1%・10%論文**を増加させます。さらに**産学協働・学内横断・異分野融合**でYU-COEを更に発展させ、**特定の研究分野で世界No1**とすべく推進します。また、**産学共同研究**を加速させ、**大学発ベンチャー設立**を通じた、**研究シーズの社会実装**を推進します。

(3) 地域創生

4キャンパスを**地方創生の中核**と位置付け、近隣自治体と連携して、**学生と地域人材に対するアントレプレナーシップ教育**と、**研究シーズ**を活用した**ベンチャー企業育成支援**を推進します。また、**地域から非常に期待の高い山形大学医学部東日本重粒子センター**を円滑に運用し、**東日本の拠点機関**となることで**大学のブランド力向上と財務力を向上**させます。

(4) 人材

多様な価値観に対応するため、**優秀な若手・女性・外国人教職員**を招聘・採用・支援し、**ダイバーシティ**を積極的に推進します。ゼロベースの徹底した**効率化・メリハリある役割分担**など教職員の働き方を見直します。**経営改革**や**危機管理対応**へ**民間企業の経営幹部**を迎え、**大学運営に民間の手法**を取り入れます。加えて、**教職員全体のモチベーション向上**のため、**経営幹部・中間管理職**の評価と**リーダーシップ研修・教育**を徹底して行います。

(5) 財務

今後10年で**運営交付金**がたとえ**20%減少**しても、**安定した経営を実現**できる**基盤構築**を目指します。**オープンイノベーション**推進本部の取組を全学的に進めて、**外部資金導入金額**を**2030年には現在の5倍**にします。**工学系での独立採算経営の取組実績をモデル**に、**戦略的マネジメント人材**を充てて**重粒子センターの独立採算経営**を実現します。**社会人リカレント教育**関連で**新たな収益源**を育成し、**収入源の多様化**を図ります。

以上、「山形大学ビジョン2030」のビジョンを教職員とともに策定・共有し、**山形地域の歴史・文化・特色**を生かしながら、その実行と実現にむけて、**山形大学長**として強い**リーダーシップ**を発揮して、**山形大学全体**の改革を推進していきます。